

水田におけるアカトンボの羽化と水稻栽培法

福島県農業試験場冷害試験地

平成12・13年度福島県農業試験場試験成績概要

1 部門名

水稻－水稻－環境調節

分類コード01－01－17000000

2 担当者

矢島 豊・菅家文左衛門・佐藤紀男

3 要旨

水稻の栽培法の違いが水棲生物に与える影響を評価するため、水田におけるアカトンボの羽化個体数と水稻栽培法との関係を検討した。

- (1) 慣行栽培（中干し）においては、慣行栽培（常時湛水）より羽化個体数が著しく減少し、アカトンボの羽化期における中干しは羽化数減少の大きな要因になると考えられた。
- (2) 慣行栽培（常時湛水）と無化学肥料栽培（常時湛水）において、羽化個体数に大きな差は認められず、羽化への化学肥料の影響は極めて小さいものと考えられた。
- (3) 有機栽培（常時湛水）および減農薬栽培（常時湛水）において、羽化個体数は常時湛水した慣行栽培の約2倍となり、現時点では本試験に用いた薬剤に限定されるが、薬剤がアカトンボに対して何らかの影響を与える可能性が示唆された。
- (4) アカトンボの羽化開始日およびピーク日は、代かき日から起算した日平均気温の積算がそれぞれ約870℃、約1000℃となる日で一定であったため、積算気温による羽化日の推定が可能であると考えられた。

4 その他の資料等

なし